

# 都心地区地下開発に関する提言

～地上の活性化を図るための地下開発～

平成 5 年 7 月

現在、福井市において推進されております本町明里線地下駐車場建設計画におきましては、周辺商工業の活性化が図られるだけでなく、県都福井市の顔としてまちづくりの面からも大きな期待が持たれる事業であります。また、この計画は今後の周辺地域における地下開発を左右させる極めて重要な計画でもあります。

しかしながら、現在示されている計画においては、単に都心地区の駐車需要を満たす機能でしかなく、地下開発における全体の長期ビジョンが示されないまま単独事業として進められております。また、周辺地区との一体的整備が不明確な状態であり、隣接する大名町交差点や、駅前地区商店街、福井県において建設の予定されている放送会館前地下駐車場との連携策が示されておられません。

ご高承の通り、地下空間は再開発の非常に困難な空間であり、その計画には慎重かつ、長期的計画を立てた上での対応が強く求められるものであります。今後、21 世紀における福井市の都市構造、都市機能の充実を図る上で、都心における地下開発については、福井県並びに民間との意見を調整した上で、全体の長期ビジョンを早期に策定するとともに、短期的には大名町交差点地下との整合性を図りつつ、実現に向け官民協力体制のもとでの推進機関を設置すべきであります。

以上、21 世紀の福井市において、活力があり魅力のあるまちづくりを実現するために次の事項を提言する。

記

## 1. 都心地区における長期ビジョンの策定

### (1) 地下へ導入する機能

地方都市における地下開発は、その地域性やまちづくりの一環として開発されるべきであり、福井市における地下利用を考える場合、まず地上の活性化を図るための地下開発である・事を前提とする必要がある。そのために今、都心地区の地下に導入可能な機能としては、公共地下駐車場と共に地上を支援するためのアミューズメント機能や情報発信機能を持った地下広場等を導入すべきである。

また、長期的には、商業、物流、地下交通といった機能や、地下施設相互のネットワーク等も考えられるため、現時点では将来の開発のための余地を担保しつつ計画を進める必要がある。

### (2) 地下開発の優先順位

地下開発における全体の長期ビジョンを示すとともに、当面短期的に対応すべき開発地域、また、長期的に対応すべき地域を明らかにすべきである。

### (3) 地上における空間確保のための地下利用

現在の都心地区においては、地上のオープンスペースが非常に少なく、県都の顔として非常に狭隘な状態である。現在、駅前広場においては区画整理と再開発が実施されようとしているが、現素案では 21 世紀にむけて新しい機能を享受する余地が全く見られず、交通処理の面からも多くの問題がある。駅前広場の空間確保のため、地上商業施設や、駐輪場等を地下へ導入し、地上空間確保のための地下利用を考える必要がある。

## 2. 実現にむけての官民協力体制

### (1) 推進機関の設置

21 世紀の地下利用を考える場合、県、市をはじめとする行政と、民間の地下利用計画について、より相乗効果を持たせるため、意見の調整を図る組織づくりが絶対必要である。

## (2)地下施設の一体的開発

官民の意見を調整し、民間の地下階の有効利用も含めた一体的な開発を推進すべきである。

## 3. 短期的対応について

### (1)大名町交差点

福井市において交通結末点として重要な位置を占める大名町交差点地下の開発については、特に以下の点に留意すべきである。

#### a) 周辺地域との一体性を持った開発

大名町交差点を囲む4街区については大規模業務施設や、民間の商業施設が立地しており、その中心となる大名町交差点地下においては、中心機能を果たすべき広場を設置し、周辺街区との通路による連絡とともに、今後地下開発が進められるであろう地域とも連絡が図られるような開発を前提として計画すべきである。

#### b) 地下広場の機能

人々が集い、憩える様な機能を前提とし、具体的には、アミューズメント機能として、水や緑を多用した空間や、人々が自由に使えるイベント広場等を中心に、観光やイベント案内を行う地域情報発信機能の導入が考えられる。また、地上で分断されている歩行者動線の代替機能や、路面電車の停留所との地下連絡も考慮すべきである。

#### c) 都市景観を阻害しない連絡口の処理

地下広場から、地上への連絡口としては、可能な限り既存施設の地下階を利用し、地上の都市景観を阻害するような連絡口を新たに設置することは極力避けるべきである。

d) 県、市の地下駐車場との結節機能

地下広場をはさみ東西に設置される県、市の各駐車場と相互連絡可能な通路を設け、人の通行を自由にするとともに、広場より下のレベルにおいては、車の連絡も可能な地下車路を設置し地上交通の補完機能も図るべきである。

e) 将来のコア地点としての機能の導入

将来的にはフェニックス通り地下の開発も考えられ、東西南北の地下施設が連絡された際には、都心地下におけるコアとなりうる地点である。その際には、憩いや地上施設を連絡するだけの空間としてだけでなく、より賑わいのある高度な空間としての機能が求められる。そのために現段階から、将来における一部商業機能や、業務機能の地下への導入が図られた際に対応可能なような開発計画を立てるべきである。

(2) 駅前地区商店街との連絡

駅前地区商店街は、現在地下開発の予定されている地域に最も近接する商店街であるとともに、民間独自の地下階を持った施設も見られる。

現在予定されている地下駐車場や大名町交差点地下の広場の有効利用を図る事を考えると、駅前地区商店街との連絡が必要である。